

2012 TOHOKU
SEINEN FORUM
OKUTSUGARU
GOSHOGAWA

公益社団法人 日本青年会議所東北地区協議会

2012年度東北青年フォーラム

(東北地区会員大会) in 奥津軽五所川原

●大会スローガン

呼び覚ませ不撓不屈の魂!

～「結」の精神が溢れる新東北再建のために～

目次

公益社団法人日本青年会議所
東北地区協議会
2012年度東北青年フォーラム
(東北地区会員大会)in 奥津軽五所川原

JCIクリード・JCI MISSION・JC宣言文・綱領	2
スケジュール	3
主催文	5
主管文	6
祝辞 青森県知事	7
祝辞 五所川原市長	8
祝辞 公益社団法人日本青年会議所 2012年度会頭	9
大会開催理念	10
大会スローガン：コンセプト	11
大会シンボルマーク：コンセプト、五所川原JC紹介	12
オープニング・エンディングセレモニー	13
東日本大震災パネル展	14
フォーラム I	15
フォーラム II	17
分科会	19
地域活性東北のたからいち in 奥津軽五所川原	20
青森ブロック会員会議所紹介	21
青森県広域図	22
会場周辺図	23
奥津軽ガイド	25

The Creed of Junior Chamber International

We Believe;
That faith in God gives meaning and purpose to human life;
That the brotherhood of man transcends the sovereignty of nations;
That economic justice can best be won by free men through free enterprise;
That government should be of laws rather than of men;
That earth's great treasure lies in human personality ; and
That service to humanity is the best work of life.

JCI MISSION

To provide development opportunities that empower young people to create positive change.

【日本語訳】 JCIのミッション（使命）

青年が、積極的な変革を創造し開拓するために能動的な活動ができる機会を創造する。

JC宣言文

日本の青年会議所は
混沌という未知の可能性を切り拓き
個人の自立性と社会の公共性が
生き生きと協和する確かな時代を築くために
率先して行動することを宣言する

綱領

われわれ JAYCEE は
社会的・国家的・国際的な責任を自覚し
志を同じうする者相集い力を合わせ
青年としての英知と勇気と情熱をもって
明るい豊かな社会を築き上げよう



スケジュール

8/31 FRIDAY

時間	内容	参加対象者	ドレスコード
13:00 ▼ 14:00	大会成功・安全祈願祭 ●場所：神明宮 担当：五所川原 JC	東北地区役員 五所川原 JC	クールビス
14:30 ▼ 17:00	地区役員会議 ●場所：ホテルサンルート五所川原 担当：東北地区協議会	東北地区役員	クールビス
18:00 ▼ 20:00	ウェルカムナイト ●場所：ホテルサンルート五所川原 担当：青森ブロック協議会・五所川原 JC	全メンバー	クールビス

ドレスコード…登壇者は上着・ネクタイ着用

9/1 SATURDAY ①

時間	内容	参加対象者	ドレスコード
10:00 ▼ 16:00	地域活性東北のたからいち in 奥津軽五所川原 ●場所：つがる克雪ドーム 担当：五所川原 JC	全メンバー 一般観覧者	クールビス
13:00 ▼ 14:15	オープニングセレモニー ●場所：オルテンシア コンサートホール 担当：フォーラム運営委員会	全メンバー 来賓	クールビス
14:25 ▼ 16:05	フォーラム I ●場所：オルテンシア コンサートホール 担当：東北ゼミナール委員会	全メンバー 一般観覧者	クールビス
16:20 ▼ 17:30	東北ゼミナール委員会閉校式 ●場所：オルテンシア コンサートホール 担当：東北ゼミナール委員会	東北地区 メンバー	クールビス

次ページにつづく

9/1 SATURDAY ②

時間	内容	参加対象者	ドレスコード
16:15 ▼ 17:45	分科会 ●場所：オルテンシア 小ホール 担当：LOM 共同委員会	東北地区 メンバー	クールビス
13:00 ▼ 17:00	会員拡大ツール展示 ●場所：オルテンシア フェアリーホール 担当：LOM 共同委員会	東北地区 メンバー	クールビス
10:00 ▼ 17:00	東日本大震災パネル展 ●場所：つがる克雪ドーム 担当：復興支援特別会議	全メンバー 一般観覧者	クールビス

ドレスコード…登壇者は上着・ネクタイ着用

9/2 SUNDAY

時間	内容	参加対象者	ドレスコード
9:20 ▼ 11:20	フォーラム II ●場所：オルテンシア コンサートホール 担当：「自立した新東北」再建委員会	全メンバー 一般観覧者	クールビス
11:35 ▼ 12:35	エンディングセレモニー ●場所：オルテンシア コンサートホール 担当：フォーラム運営委員会	全メンバー	クールビス
9:00 ▼ 13:00	東日本大震災パネル展 ●場所：オルテンシア フェアリーホール 担当：震災復興特別会議	全メンバー 一般観覧者	クールビス

ドレスコード…登壇者は上着・ネクタイ着用



主催文



公益社団法人 日本青年会議所東北地区協議会
2012年度 会長 植松 悟

青年会議所は「明るい豊かな社会を築く」という揺るぎない理念を掲げ、各地において社会情勢の変化を敏感に察知し、それぞれの時代に合った「まちづくり」「ひとづくり」などの活動を日々行っております。その一つに、東北各地の会員が一同に集まり、会員意識の向上と情熱を得る貴重な機会として、また、私たちの運動を関係団体や市民の皆様へ広く発信する場として、東北青年フォーラム(東北地区会員大会)を毎年開催して参りました。本年度は会員3300名が、奥津軽五所川原の地に集まり、東北青年フォーラムを開催いたします。奥津軽五所川原は長い歴史の中で様々な災害に見舞われましたが、先人達はその都度どんな困難にも負けずに「不撓不屈」の精神で復興を遂げてきました。また、津軽平野特有の暴風雪に備え、かやぶき屋根や雪囲いを作るため隣人同士助け合いながら生き抜いてきました。このような地理的、気候的条件の地域であるがゆえに「結」の精神が今でも息づき続け、特異な文化を現在に至るまで保ち続けております。この東北に甚大な被害をもたらした東日本大震災から一年が

過ぎ、復興元年と呼ばれる本年に、この地で本大会を開催することに運命を感じます。

2012年度の公益社団法人日本青年会議所東北地区協議会は「立ち上がろう!東北~新東北の再建は我々青年の仕事である~」をスローガンに、如何なる困難にも負けなつよい地域を再建するために様々な運動を展開しております。本年度は「自立した新東北」の再建に繋がる大会とすることこそが大きな意義だと捉え、東北地区協議会の運動を市民の皆様や会員、そして東北中に力強く発信します。また、「不撓不屈」の精神をもって様々な困難に立ち向かい復興してきた奥津軽五所川原の地域の皆様と手を取り合いながら、より公益性の高い大会を実現します。

本大会に参加いただいた皆様が住み暮らす各々の地域に、東北の復興に向けた私たちの運動を持ち帰っていただき、東北中に伝播し醸成されることによって、東北すべての人々が「結」の精神をもってお互いを助け合う「明るい豊かな社会の実現」を図り、「自立した新東北」の再建に繋がります。

主管文



公益社団法人 五所川原青年会議所
2012年度 理事長 今 直樹

岩木山と岩木川が織りなす美しき郷土奥津軽五所川原は津軽平野のほぼ中心に位置し、先人たちが幾度の天災を乗り越え「不撓不屈」の精神で新田開発したこの地はとても美しく、四季折々に空のキャンバスが鮮やかな光景を見せてくれます。津軽平野特有の暴風雪に備え人々はかやぶき屋根や雪囲いを作るため隣人同士助け合いながら生きてきました。このような地理的、気候的条件の地域であるがゆえに「結」の精神が今でも息づき、特異な文化を現在でも保ち続けております。五所川原市街地は奥津軽を集約する商業都市として発展してきましたが、現在では少子高齢化や人口減少による景気低迷など東北各地域同様、様々な問題を抱えております。また、昨年発生した東日本大震災では直接的な被害は少なかったものの間接的被害を受け、観光業界を始めその他の業界にも影響があり、低迷する地域経済に追い打ちを掛けたことは言うまでもありません。

そこで、東北各地で同じように発生しているこうした問題の解決に向けて、2012年度の公益社団法人日本青年会議所東北地区協議会は「立ち上がろう!東北~新東北の再建は我々青年の仕事である~」をスローガンに運動を展開しています。復興元年と位置づけら

れた本年、このスローガンの下に東北地区内3300名のメンバーが集う東北青年フォーラム(東北地区会員大会)を、当青年会議所主管により奥津軽五所川原の地で開催いたします。まず、東北各地より本大会に来ていただく皆様と、ここ奥津軽五所川原に対しての心からの感謝と思いやりの気持ちをもち、おもてなしの心で皆様をお迎えできるよう更なる会員の資質向上をはかります。また、青年会議所の諸先輩方が築き上げてきた東北の魂をしっかり継承しながらも、より公益的な大会にするために、市民、各種団体、企業、教育機関、行政、OB、青森ブロック協議会などの多くの方々と手を取り合い、有機的連携を更に強固なものにします。そして、従来の会員の研修及び交流の場という意義を重視しながらも、「自立した新東北」の再建に向けた青年会議所運動を地域社会に広く発信する機会にすると共に、地域に活力を見出す機会といたします。

本大会に携わられた全ての皆様に、東北の未来へ向けた様々な取り組みと、「結」の精神、「不撓不屈」の精神を各地に持ち帰って頂き、それらが醸成され、東北再建への運動が各地域で展開されるための、実りある大会を実現いたします。

祝 辞



青森県知事
三村 申吾

「公益社団法人 日本青年会議所 東北地区協議会 2012年度東北青年フォーラム(東北地区会員大会)in 奥津軽五所川原」が、ご青森の地において開催されますことをお喜び申し上げますとともに、東北各地から御来県いただきました皆様を心から歓迎いたします。

また、植松会長はじめ、皆様方には、地域の明日を担う若きリーダーとして、英知と勇氣と情熱を結集し、新しい地域文化の創造や、地域の活性化に取り組みられていることに深く敬意を表します。

地域経済を支える大切な基盤である中小企業の活性化は、活力ある地域づくりにおいても大変重要であります。現在、東北地方では東日本大震災からの復旧・復興に向けた懸命な努力が続けられ、青森県においても、被災事業者の負担を軽減する積極的な金融対策をはじめとした地域産業を支えるための取組に、スピード感を持って取り組み、明るい動きも着実に出てきているところです。

しかし、本格的な復興はこれからです。震災をバネとした「攻めの復興」に取り組み、創造的復興を表現し、東北の復興を支え、日

本の未来に貢献していくことを目指して取り組んでいきたいと考えています。

このような中、「呼び覚ませ不撓不屈の魂!」を大会スローガンに、東北地区の各青年会議所の皆様が一室に会し、互いの連携・交流を深められることは、東北地方の復旧・復興を加速させ、新しい未来を切り拓くことにつながるものであり、大変意義深いものがあります。皆様の情熱溢れる行動力に期待するとともに、今後ともお力添えを賜りますようお願いいたします。

本県には、世界自然遺産白神山地や十和田湖・奥入瀬渓流をはじめとする美しい自然景観、三内丸山遺跡などの縄文遺跡群、リンゴやにんにく、大間のマグロをはじめとする全国に誇る農林水産資源、多彩な温泉資源、郷土料理やB級グルメなど、数多くの魅力が溢れています。皆様には、是非この機会に、青森を満喫していただければと思います。

結びに、公益社団法人日本青年会議所東北地区協議会並びに各青年会議所のますますの御発展、並びに御参集の皆様方の御活躍と御健勝を心から祈念し、お祝いの言葉といたします。

祝 辞



五所川原市長
平山 誠敏

「2012年度東北青年フォーラムin 奥津軽五所川原」が、当市で開催されますことは誠に喜ばしく、東北各地からお集まりの皆様を心から歓迎申し上げます。

五所川原市は、津軽平野のほぼ中央に位置し、津軽三味線発祥の地であり、作家太宰治の生家「斜陽館」、中世安藤氏の十三湊遺跡群、さらには、知名度が全国的となった「五所川原立佞武多」といった歴史文化資源を擁し、豊かな自然に恵まれた農林水産業を基幹産業とする田園都市であります。

当市の歴史を一部ひも解きますと、岩木川の氾濫による度重なる洪水、さらには中心市街地における二度の大火などの災害に見舞われ、その度に先人達が「不撓不屈」の精神により、その困難を乗り越えてきた歴史があります。また、近年では不可能か

と思われた巨大な山車「立佞武多」の復元も、市民有志の「不撓不屈」の精神により成し遂げることができ、平成10年からは当市最大の夏祭り「五所川原立佞武多」として確立し、現在に至っています。

「東日本大震災復興元年」と位置づけられた今年、「立ち上がろう!東北~新東北の再建は我々青年の仕事である~」をスローガンに開催される本フォーラムは、誠に時宜を得たものであり、ご盛会を心からお祈り申し上げます。

結びに、当市で開催されるフォーラムに参加された皆様が、東北に、そして故郷に対する大きな思いをさらに深められ、それぞれの地域において、明るい豊かな社会を築く牽引役としてご活躍されますことを願っております。



祝 辞



公益社団法人 日本青年会議所 2012年度 会頭 井川 直樹

2012年度東北青年フォーラム in 奥津軽五所川原が、五所川原の地において公益社団法人五所川原青年会議所の主管のもと盛大に開催されますことを心よりお祝いを申し上げます。

本年、公益社団法人日本青年会議所では、『呼び覚ませ 日本のプリンシプル!』のスローガンのもと、10年先、20年先を見据えた問題提起と解決に向けた方向性を日本の青年として矜持を持って力強く発信してまいります。そして、わが国に「震災後」とよばれる新たな確かな時代を築くために、地区協議会が会員会議所にとっての広域的なカウンターパートとして、具体的な運動とともに展開することで自らの意識を変革し、市民意識を変革してまいります。

2012年度東北青年フォーラムにおいて

は、植松悟会長のリーダーシップのもと、地域資源を「地域のたから」へと昇華させるとともに、経済と環境の視点をしっかりと持ち、エネルギーリテラシーともいべき能力を確立する機会を広く一般に提案し、大会テーマである「呼び覚ませ不撓不屈の魂!～「結」の精神が溢れる新東北再建のために～」を体現する素晴らしい大会となりますことをご期待申し上げます。

結びに、日本青年会議所は、東北地区協議会とともにいつもLOMの隣で運動を推進してまいります。これからも、6ブロック77会員会議所の皆様がそれぞれの地域においてもっとも頼られ必要とされる団体として活躍し続けることをご祈念申し上げます。お祝いのご挨拶とさせていただきます。

大会開催理念

父なる岩木山と母なる岩木川が織りなす美しき郷土、奥津軽五所川原。先人達はこの山と川に囲まれた湿地帯を命懸けで新田開拓し、まちをつくってきましたが、度重なる洪水や一瞬にしてまちをなめ尽くした二度の大火を経験し、幾度となく絶望の淵に立たされました。しかし、その度に愛する郷土のため、どんな困難にも挫けず「不撓不屈」の精神で復興を遂げてきました。また、青森県を代表するまつりに「ねぶた」がありますが、この地域では「立佞武多」と呼ばれる約21メートルもある巨大なねぶたが県内に名を轟かせておりました。しかし、大正時代になり、電話、電気の普及による電信柱の設置と戦後の大火により「立佞武多」は消滅してしまいました。その後、1996年に市民が立ち上がり1998年に80年ぶりにその復活をとげ、今では青森ねぶた、弘前ねぶたとともに東北の夏まつりとして、その名を全国に轟かせております。この幾度となく災害から復興を遂げた奥津軽五所川原の地で本年、東北青年フォーラムを開催致します。

昨年の東日本大震災で私たちの暮らしは一変してしまいましたが、東北人のアイデンティティである「結」の精神までは変わることがありません。復興元年である本年、私たちは、このような変わることのない「結」の精神を背景に凜然と立ち上がります。そして、「新東北の再建は我々青年の仕事である」という気概をもって復興に向けての気運を高めるために、広く市民とも有機的連携をはかり東北青年フォーラムを開催します。本大会では「自立した新東北」の再建にむけ、地域主権をも念頭においた中長期的な震災からの再建ビジョンを発信します。また、長期間にわたることが予想される再建への道のりを繋ぐべく、今後の東北の未来に繋げる運動を全ての参加者に発信し、東北全体に広く伝播することを目指します。

この大会に参加した一人ひとりが「東北は一つ」という意識を確認し、各々の地域で清々しく運動を展開する機運をますます高め、「自立した新東北」再建へと繋げる大会とします。



大会スローガン

呼び覚ませ不撓不屈の魂!

～「結」の精神が溢れる新東北再建のために～

コンセプト：

かつて五所川原は度重なる飢饉や、全てを飲み込んでしまう岩木川の大洪水、そして街の半分を焼き払った二度の大火に襲われるなどの災害が数多く発生し、人々は幾度も絶望の淵に立たされました。

しかし先人たちはこの街をあきらめず見事に復興を成し遂げたのです。その想いは現在まで引き継がれ、誰もが無理だと言った80年前のねぶた、立佞武多をも復活させ、街を大きく繁栄させ賑やかさを取り戻したのです。

五所川原市の市民憲章の前文には「わたしたちの先人は不撓不屈の五所川原魂をもってあらゆる困難を克服し新田を切り拓き、今日の活力に満ちた五所川原市を築き上げました。」と記されています。

今年度この地で東北青年フォーラムが開催されることは偶然ではなくて必然であります。なぜならば昨年発生した東日本大震災の復興において、必ずやこの不撓不屈の魂が必要だからです。

東北青年フォーラム in 奥津軽五所川原の開催により不撓不屈の魂を呼び覚まし、それを東北各地へ持ち帰って頂く事により、青年会議所の諸先輩方が目指した「結」の精神が溢れる新東北の再建が成し遂げられるものと信じこの大会スローガンと致しました。



大会シンボルマーク



コンセプト

このシンボルマークは全体的に五所川原が誇る立佞武多をイメージし、和のテイストを取り入れ明るいカラフルなデザインとなっています。五所川原の地より発信されているものは「不撓不屈」の魂で、この魂が東北青年フォーラムを機に虹になって東北中に広がるイメージです。虹は復興を表しており、「雨の後は虹かかかると」という事に例えられます。

また、地図の県境を消し、「東北は一つ」という理念の下、地域の垣根を超えて OMOIYARI の心で助け合う精神、いわゆる「結」の精神を、地図をもも色にする事で表現しました。

東北青年フォーラム in 奥津軽五所川原の開催において不撓不屈の魂が東北中に行きわたり、それが「結」の精神溢れる新東北の再建の実現になると信じ、このシンボルマークを作成しました。

五所川原 JC 紹介

五所川原青年会議所は、第二次大戦の終結と荒廃から戦後日本が復興へと向かい、高度経済成長期へと時代が移り変わりつつあった1964年2月29日に、地域社会の健全な発展と次代のひとつづくりによる「明るい豊かな社会」の実現を目的として、青森青年会議所(当時)がスポンサー JC となり創立されました。

1971年には地域や国の垣根を超え、同じ志を持つ会員同士の交流から大きな絆が生まれ、新竹国際青年商會(台湾新竹市)との姉妹 JC 締結を行い、今日も親交を深めております。

また、1973年に社団法人五所川原青年会議所(当時)が地域に根付いている伝統行事「虫送り」の発展と地域の活性化を図ろうと、「天下泰平」「国家安泰」「五穀豊穰」「悪疫退散」の祈りとともに御神火を取り入れた「虫おくり火まつり」を執り行いました。平成12年からは、名称を「奥津軽虫と火まつり」と改め、地域の幸せを願うまつりとして執り行われております。

刻々と変化する社会情勢の中においても、それぞれの時代に即した、地域に必要とされる運動を展開し続けながら、2012年1月5日には公益社団法人へと移行し、今日に至っております。



オープニングセレモニー

開催日時 **平成24年 9月1日(土)** 13:00 ~ 14:15

開催場所 「オルテンシア」ふるさと交流圏民センター
コンサートホール

※式典会場入場には「登録証」が必要です。必ずご持参ください。

- | | |
|-------------------|---------------------------|
| 1 オープニング | 9 来賓挨拶 |
| 2 物故会員の黙祷 | 10 祝電披露 |
| 3 開会宣言 | 11 JCI 役員・日本 JC 紹介 |
| 4 国歌斉唱 | 12 各ブロック協議会会員会議所
理事長紹介 |
| 5 JCI クリード唱和 | 13 開催地理事長挨拶 |
| 6 JCI MISSION 唱和 | 14 閉会宣言 |
| 7 JC 宣言文朗読並びに綱領唱和 | |
| 8 会長挨拶 | |

エンディングセレモニー

開催日時 **平成24年 9月2日(日)** 11:35 ~ 12:35

開催場所 「オルテンシア」ふるさと交流圏民センター
コンサートホール

- | | |
|---------------|------------|
| 1 開会宣言 | 7 大会の鍵伝達 |
| 2 次年度会長候補者発表 | 8 記念品交換 |
| 3 次年度会長候補者挨拶 | 9 開催地理事長謝辞 |
| 4 次年度開催地発表 | 10 会長謝辞 |
| 5 次年度主管開催地 PR | 11 閉会宣言 |
| 6 次年度主管開催地挨拶 | |

東日本大震災パネル展



東日本大震災パネル展 「東北の絆」



開催日時 **9月1日(土)**
10:00 ~ 17:00

開催場所 つがる克雪ドーム

9月2日(日)
9:00 ~ 13:00

「オルテンシア」ふるさと交流圏民センター
フェアリーホール

東日本大震災発生から今日まで、多くの人びとが復旧・復興支援活動に携わってきたその姿を、映像やパネルを通してご覧いただき、相互扶助の尊さとそこから生まれる勇気や将来への希望を伝えます。震災の風化防止や、東北人の絆とアイデンティティの涵養を図りながら、継続的に「自立した新東北」再建に向けて活動していく意識の醸成に繋げていきます。



フォーラム I

●メインテーマ

活力ある 地域の再建に向けて

～有機的なネットワークの構築による
新東北の再建を見据えた運動の発信～

開催
日時

9月1日 **土** 14:25 ~ 16:05 (100分)

開催
場所

「オルテンシア」ふるさと交流圏民センター
コンサートホール

東北ゼミナール委員会活動発表

東北ゼミナール委員会では一年間の活動の中で東北各地域の問題点、地域の特性、特色を研究してまいりました。その結果として得られたことはそれぞれの諸課題を解決すべく人材の創出と新しい共生関係を構築した組織づくりであります。

本年度、東北ゼミナール委員会では新東北の再建に向けて取り組まなければならない3つの運動を打ち出すとともに実現可能なプロセスを構築し事業事例として提案します。メインフォーラム I では地域の再建のために人材、そして「ひと」という資源を活かした活力あるまちづくりをゲストコメンテーターを交え、私たちの考える復興に向けた運動を市民の方々、東北各地域の青年会議所メンバーに発信します。

●ゲストコメンテーター

●経歴：
1980年(昭和55年)生まれ
青森県八戸市出身
帝京大学心理学科卒
広告代理店・介護老人保健施設勤務を経て、2007年4月 八戸市市議会議員選挙 初当選

●現在の役職：
・議会運営委員会
・建設常任委員
・港湾振興・震災対策特別委員会 委員長
・八戸大学・八戸短期大学総合研究所特別研究員(起業家養成講座担当)
・自由民主党八戸市支部女性部長
・八戸ふるさと大使
・新郷村欽むコーゲルト大使
・八戸地域広域市町村圏事務組合議員



ふじかわ ゆり
藤川 優里氏

●八戸ふるさと大使

●活動紹介：新朝 45、月刊公民館、新都市、月刊港湾等に、寄稿。
地元紙の他、経済誌フィナンシャルジャパン、プレジデント等の取材を受ける。日本青年会議所サマーコンファレンス2009、釧路港みなとフォーラム、国立工業高等専門学校、全国商工会議所観光振興大会、豊橋青年会議所等、市内外にて地方政治、市町村合併、道州制、まちづくり、観光をテーマに講演、パネルディスカッション活動。
・光文社より八戸から愛をこめて出版
・ポニーキャニオンよりDVD LOVE NAVI 八戸、写真集 MOE NAVI 八戸出版
・さんまのまんま、おもいっきりDON等観光PRのため出演

●現職：
弘前大学人文学部教授
同大学学部附属雇用政策研究センター長
同大学学部附属ボランティアセンター事務局長
チーム北リアス共同代表

●略歴：
1968年 韓国釜山市生まれ。
1991年 来日
1996年 名古屋大学経済学部卒業
2002年 名古屋大学大学院経済学研究科博士課程修了
博士(経済学)の学位授与
名古屋大学附属国際経済動態研究センター講師
2003年 弘前大学人文学部講師
2004年 弘前大学人文学部准教授
2010年 弘前大学附属雇用政策研究センター長
2011年 弘前大学人文学部教授、附属ボランティアセンター事務局長



い よんじゅん
李 永俊氏

●国立弘前大学 教授

●主な著書：
「労働市場の二極化と長期雇用システム」大阪大学社会経済研究所主催 第4回社経・森口賞受賞、2002年。
「青森県で生きる若者たち」(共著)弘前大学出版会、2008年。
「青森県の現状と課題—2030年の青森県に向けての提言—」
財団法人青森地域社会研究所創立30周年記念地域課題論文募集 最優秀論文賞、2009年。
「チーム・オル弘前の一年間」(共著)弘前大学出版会、2012年

●主な研究分野：労働経済学。青森県を中心とした地方の雇用問題、若年者の就業状況などに関心が高い。データを用いた実証分析を主に実施している。最近は「青森モデル」(陸奥新報「日曜随想」欄に連載中)を打ち上げ、青森らしい暮らし方を模索している。東日本大震災の発生後は、教員有志と一緒に附属ボランティアセンターを設立し、弘前市と協働で岩手県野田村への支援・交流活動を展開している。



フォーラムⅡ

●メインテーマ

みんなで描く！ 未来の東北

開催日時 **9月2日(日)** 9:20 ~ 11:20 (120分)

開催場所 「オルテンシア」ふるさと交流圏民センター
コンサートホール



第1部 / トーク&コンサート

くまがい いくみ

熊谷 育美氏

●シンガーソングライター

profile

2009年11月にタクミノートから「人待雲」でメジャーデビュー。
2010年に発表した「月恋歌(げつれんか)」が全国東宝系映画「劇場版 TRICK 霊能力者バトルロイヤル」の主題歌に抜擢。

2011年3月11日、自らが住む気仙沼市にて、お笑いコンビのサンドウィッチマン(宮城県仙台市出身)と共に、TBCテレビの企画ロケーション収録をしていた。気仙沼漁港に隣接する観光施設「海鮮市場海の市」での撮影が終了し、撮影クルーとわかれた直後、東日本大震災(東北地方太平洋沖地震)に遭う。

本人並びに高台にあった自宅は難を逃れるも、地震と津波で気仙沼沿岸市街地は瓦礫の山となり、倒壊した石油タンクから流出した重油などに引火して火の海と化するのを目の当たりにする。

親族と共にしばらく避難所生活をした後、3月23日に中国・香港で開催される「香港アジアポップミュージックフェスティバル」に日本代表として選出されていたため、知人の車で秋田空港に向かい、東京までたどり着いたが、同フェスティバルへの参加を取り止めて、東京のマスメディアから被災地の状況を発信し続けた。

音楽番組において、若者向けの「ミュージックステーション」とシニア層向けの「NHK 歌謡コンサート」の両番組に出演を果たしている希少な歌手でもある。

東日本大震災の被災者でもある熊谷育美氏の歌と話を聞き、参加した皆様が震災当時の事や被災地の現状、そして東北の未来について、共に考え想いを馳せることで、これからのまちづくりに対し元気と勇気を頂ける機会となります。

第2部 / パネルディスカッション



●パネリスト

くまがい いくみ

熊谷 育美氏
シンガーソングライター



●パネリスト

おのだ やすあき

小野田 泰明氏
東北大学大学院 教授



●パネリスト

すがわら たいじ

菅原 泰治氏
元東北大学公共政策大学院 教授



●パネリスト

うえまつ さとる

植松 悟君
公益社団法人日本青年会議所
東北地区協議会 会長



●コーディネーター

い で あさみ

井手 麻実氏
青森テレビアナウンサー

震災復興に向けた課題や問題を解決し、東北が今後さらに飛躍・発展していくためにはどうしたらいいのか、現状を見つめ直し互いに議論することで、夢広がる東北の未来を描きます。そして、参加して頂いた皆様がこのフォーラムⅡで得られた気づきを自分たちの地域に持ち帰り、魅力溢れる地域を作り出すエネルギーを得て頂きます。

第3部 / 委員会発表

「自立した新東北」再建ビジョン発表



分科会 (LOM 共同セミナー)

●メインテーマ

変わらないために変わる

～ LOM の理想的な存続にむけて～

開催
日時

9月1日 土 16:15～17:45

開催
場所

「オルテンシア」ふるさと交流圏民センター
小ホール

今年度、皆様にご協力いただいた会員拡大などに関するアンケートを基に、今の東北地区77LOMの現状分析から、LOMの理想的な存続をともに考えるセミナーになっています。参加対象者は、2012年度の各LOM会員拡大担当者及び2013年度会員拡大担当候補者(予定者)ですが、メンバー全員にぜひ参加していただきたいセミナーとなっております。変わらないために変わらなければいけない、メンバーの意識向上と会員拡大のきっかけをこのセミナーで得ることができます。組織づくりを考えなければいけない皆さんが、JCの意味・意義を知ること、活動の視野を広げる機会です。ぜひ多くの皆さまのご参加をお待ちしております。

同時開催

開催
日時

9月1日 土 13:00～17:00

開催
場所

「オルテンシア」ふるさと交流圏民センター
フェアリーホール

会員拡大ツールの展示

各LOMにはそれぞれで考えて作成した、会員拡大ツールがあります。なかなか他のLOMのツールを見ることはないかと思いますが、それぞれにおいてさまざまな工夫がされています。この機会に、各LOMの会員拡大ツールを見ていただくことで、自身のLOM運営の参考にすることができます。また、会員拡大担当者の情報交換の場としても活用していただけます。

LOM 活動カバーエリア・ 会員カバーエリアの展示

各LOMの活動エリアはどこまでの市町村なのでしょうか？
広域のJCとしての活動エリアを展示することにより、LOMの活動の可能性を見出していただけます。

JCI

地域活性東北

たからいず

2012 TOKYO SEINEN FORUM in OKUITSUGURI GOSHOGAWARA

開催
日時

9月1日 土

10:00～16:00

開催
場所

つがる克雪ドーム

ファンクション

1. 東北のたから展示ブース
2. 震災復興写真ブース
3. 開催地の地域資源発信ブース
4. 震災復興と地域の魅力発信を考えたパネルディスカッション
「東北の魅力発信!!
ご当地アイドル・タレント・アーティストサミット」
5. 奥津軽五所川原から元気発信!!
「ご当地アイドル・アーティストによるステージ」



●コーディネーター
りな
はたの 里奈 氏
兼ファイナンスリアルアウンサー
代表取締役社長

各県で活躍しているご当地アイドル・アーティストによるステージを披露し、奥津軽五所川原から活気・元気を東北全域に発信する。

出演者



りんご娘&アルプスおとめ
(青森県代表)



PRAMO
(秋田県代表)



小川恵子先生&
アンダーバス
(岩手県代表)



みちのく仙台 ORI ☆姫隊
(宮城県代表)

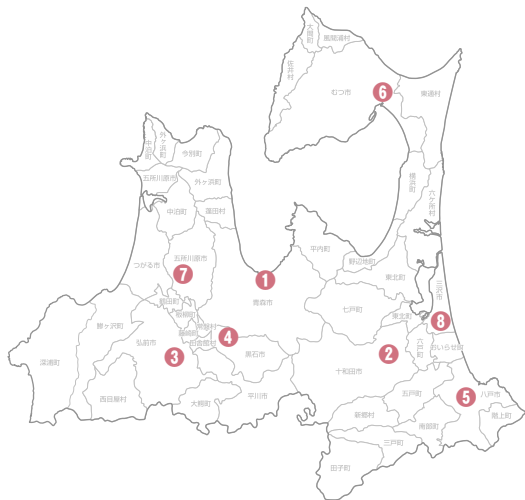


Loveit!
(福島県代表)



La! ハラミ太鼓
(山形県代表)

青森ブロック会員会議所紹介



1 公益社団法人 青森青年会議所

〒030-0802
 青森市本町 4-1-25
 TEL : 017-722-3355
 FAX : 017-722-3356
 E-mail : aomori@aoamori-net.ne.jp

2 社団法人 十和田青年会議所

〒034-0082
 十和田市西二番町 4-11 十和田商工会館5階
 TEL : 0176-23-1958
 FAX : 0176-25-2464
 E-mail : info@towada-jc.com

3 公益社団法人 弘前青年会議所

〒036-8343
 弘前市東長町 47-2
 TEL : 0172-34-4458
 FAX : 0172-34-4497
 E-mail : jc@jcc@hirosaki-jc.com

4 社団法人 黒石青年会議所

〒036-0307
 黒石市 / 町 5-2 産業会館3階
 TEL : 0172-52-3369
 FAX : 0172-52-3376
 E-mail : 161@k-jc.com

5 公益社団法人 八戸青年会議所

〒031-0073
 八戸市大字売字観音下6番地2F
 TEL : 0178-22-5501
 FAX : 0178-43-7364
 E-mail : info@hachinohe-jc.com

6 社団法人 むつ青年会議所

〒035-0031
 むつ市柳町 1-10-25(まさかりプラザ)内
 TEL : 0175-22-4360
 FAX : 0175-22-6450
 E-mail : info@mutsu-jc.com

7 公益社団法人 五所川原青年会議所

〒037-0052
 五所川原市東町 17-5 五所川原商工会館1階
 TEL : 0173-35-4049
 FAX : 0173-35-4044
 E-mail : goshojc@mx4.et.tiki.ne.jp

8 社団法人 三沢青年会議所

〒033-0011
 三沢市幸町 2-1-1 三沢商工会館3階
 TEL : 0176-53-3231
 FAX : 0176-53-3274
 E-mail : misawajc@ninus.ocn.ne.jp

ACCESS

交通のご案内

会場 / 「オルテンシア」ふるさと交流圏民センター

- 東北新幹線 新青森駅から車で40分
- 青森空港から車で30分
- 津軽自動車道 五所川原北ICから車で3分

会場 / つがる克雪ドーム

- 東北新幹線 新青森駅から車で35分
- 青森空港から車で25分
- 津軽自動車道 五所川原ICから車で5分



MAP

H 宿泊施設

CV コンビニ

スーパー
佐藤長
薬王堂

オルテンシア

五所川原北1.C

津軽自動車道

津軽鉄道

五能線

五所川原

津軽五所川原

中村整形外科

焼肉レストラン
一心亭

みちのく銀行

西北中央病院

五所川原温泉ホテル

吉野家

サンルート五所川原
パティオ

五所川原商業
高等学校

アクロスプラザ

バスステイ

ヤマダ電機

ELMの街 S.C

GS

ゼビオスポーツ

五所川原署

洋服の青山

パークイン五所川原
エルムシティ

ケーステンキ

つがる克雪ドーム

会場 周辺図

※オルテンシア：0173-33-2111
五所川原市字幾世森 24 番地 15



会場 周辺図

※つがる克雪ドーム：0173-33-3377
五所川原市大字唐笠柳字藤巻 495-2



◎ 五所川原市役所

OKUTSUGARU GUIDE

奥津軽へようこそ

津軽鉄道 (つがるてつどう)

五所川原から中里までの広大な田園地帯を約 20 キロ、津軽鉄道は旅情漂う景色の中をのんびり進みます。夏には各車両・客室内に風鈴や短冊が下げられ「風鈴列車」に（7月1日～8月31日）。秋には客室内に鈴虫の籠を取り付けられ「鈴虫列車」へと変わります（9月1日～10月中旬）。そして冬になるとダルマストーブが車内に設置され「ストーブ列車」となり、身も心も温まりながら、車窓からの銀世界を満喫することができます。

津軽鉄道様

TEL.0173-34-2148 五所川原市大町 39

<http://tsutetsu.com/>



五能線 (ごのうせん)

五能線は、秋田県能代市の東能代駅と青森県南津軽郡田舎館村の川部駅を結ぶ、東日本旅客鉄道（JR 東日本）の鉄道路線です。区間・路線距離（営業キロ）147.2km に 43 の駅（起終点駅含む）があります。日本海の海岸沿いを走るというロケーションを活かし、観光列車「リゾートしらかみ号」が運転されており。

JR 東日本 五所川原駅

TEL.0173-34-5366 五所川原市大町 38



奥津軽の紹介

「奥津軽」とは、西津軽地域の「鯉ヶ沢町」「深浦町」、北津軽地域の「中泊町」「鶴田町」「板柳町」「つがる市」「五所川原市」の 7 市町を総称した名称です。

この地域では、郷土芸能が大変盛んで、古くから伝わる習慣や津軽の風景画が色濃く残されている地域でもあります。

- 1 立佞武多の館
- 2 津軽金山焼
- 3 旧平山家
- 4 布嘉屋
- 5 吉幾三コレクションミュージアム
- 6 斜陽館
- 7 津軽三味線会館
- 8 すこっぷ三味線快館
- 9 十三湖
- 10 道の駅十三湖高原 トーサムグリーンパーク
- 11 道の駅こどもり ポントマリ
- 12 中泊町博物館
- 13 縄文住居展示資料館 カルコ
- 14 つがる地球村
- 15 高山稻荷神社
- 16 竜飛岬
- 17 鶴の舞橋
- 18 道の駅つるた 鶴の里あるじや
- 19 板柳町立郷土資料館
- 20 板柳町ふるさとセンター
- 21 鯉ヶ沢相撲館
- 22 わざお
- 23 千量敷海岸
- 24 十二湖

OKUTSUGARU MAP



7

立佞武多の館 (たちねぶたのやかた)

大型立佞武多3台を常時観覧できる他、併設の製作所では、これら巨大ネプタの製作現場も見学できます。

また、金魚ネプタなど、津軽の民芸の製作体験を行ったり、五所川原立佞武多囃子の実演も行われています。その他、美術展示ギャラリーもごさいます。最上階の展望ラウンジでは、岩木山、八甲田山、碓珠山、津軽平野の展望を食事とともに楽しめます。

TEL.0173-38-3232 (代表)

五所川原市大町 21-1

<http://www.tachineputa.jp>



2 津軽金山焼 (つがるかなやまやき)

地元の良質な材料で釉薬を一切使用せず、1,300度の高温でじっくり焼き固める手法「焼き締め」によって独特の深みと風合が表現された焼き物です。常時見学や陶芸体験ができます。春と秋には陶器祭りが開催され、多くのファンでにぎわっています。

TEL.0173-29-3350

五所川原市大字金山字千代鶴 5-79

<http://www.kanayamayaki.com/>



3 旧平山家 (きゅうひらやまけ)

代々津軽藩広田組代官所の手代を務めた平山家の住宅として建てられ、200年以上を経過した当地方では最古の建造物です。津軽地方の上層農民が生活した姿を当時のまま保存した貴重な建物で、主家と表門は国の重要文化財に指定されています。

TEL.0173-34-8870

五所川原市大字湊字千鳥 144-1



明治 29 年に建築され昭和 19 年の大火によって消失した、大富豪「布嘉」の豪邸のミニチュア模型を展示している建物です。布嘉御殿は、かつて現在の五所川原市本町に存在し、1万2千平方メートルの敷地に、建坪900坪という巨大さで、周囲には赤レンガの塀が張り巡らされた和洋折衷の様式でした。そのミニチュア模型は、横幅が8メートルもある巨大なもので、4年の歳月をかけて完成しました。

TEL.0173-34-7670

五所川原市字宇つ谷 515-2



5

吉幾三コレクションミュージアム

五所川原市金木町出身の吉幾三さんのステージ衣装、コンサート等で使用した愛用のギター、これまで受賞した数々のタイトル、直筆の書などを展示しています。会場では大型スクリーンにてコンサートや公演などの貴重映像が映し出されており、喫茶「夢〜ドリーム〜」もあるので、ゆっくりとくつろぎながら吉幾三さんを身近に感じることができます。

TEL.0173-26-6686

五所川原市大字広田字樽森 54-64

榎半田硝子建材 住まいのショールーム3 F

金木地区

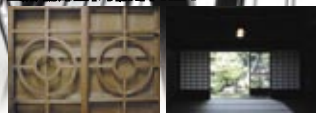
6 国指定重要文化財

斜陽館 (しゃようかん)

金木出身である作家、太宰治の生家。明治の大地主、津島源右衛門が建築した入母屋作りの建物で明治40年6月に落成しました。米倉にいたるまでヒバ材を使用し、1階11室、2階8室、付属建物や泉水を配した庭園など、合わせて680坪の豪邸となっています。戦後、斜陽館となり、全国から多くの太宰ファンが訪れています。現在、市立記念館となり、蔵の一つが展示室になっています。写真や原稿をはじめ、マントや帽子などの太宰が愛用した品々が展示されています。

TEL.0173-53-2020

五所川原市金木町朝日山 412-1



7 津軽三味線会館 (つがるしゃみせんかいかん)



金木は津軽三味線の発祥の地でその始祖「津原の仁太坊」の出身地です。この会館では津軽三味線を生んだ風土や歴史、民謡、郷土芸能などを紹介している展示室や多目的ホールがあり、津軽三味線の生演奏も堪能できます。

TEL.0173-54-1616

五所川原市金木町朝日山 189-3

8 すこっぷ三味線快館 (すこっぷしゃみせんかいかん)

津軽スコップ三味線とは、農耕や雪かきなどで使用されるスコップと、撥(バチ)代わりのセンスキを用いて、音楽や三味線の音色に合わせて打楽器のように演奏する手芸です。近年では全国に知られるようになり、世界大会が毎年開催されています。この施設ではスコップ三味線のライブを聴いたり、演奏を体験することもできます。

TEL.0173-52-4450

五所川原市金木町中柏木鎌石 263-1



9 十三湖 (じゅうさんこ)

津軽の秀峰・岩木山に発し、広大な津軽平野を流れる岩木川が最後にたどり着くのがこの十三湖です。淡水と海水の入り混じる汽水湖で日本有数のヤマトシジミの産地として広く知られています。現在は、漁場・史跡としてのほか、湖の北側に浮かぶ「中の島」には、歴史民俗資料館、レクリエーション施設などがあり、行楽地としても地域の人々に親しまれています。
TEL.0173-62-2232 市浦商工会

写真：五所川原市教育委員会提供

10 道の駅 十三湖高原
トースムグリーンパーク

十三湖にほど近い高台にあり、最高の景観が満喫できます。特産品のしじみ貝をはじめ、しじみの様々な加工食品など地元の商品を中心に、近隣の物産も販売されています。高さ15m、全長136mのゴムローラーすべり台(無料)は子ども大人にも人気です。
TEL.0173-62-3556
五所川原市相内実取 287-1058

http://www.tosam.co.jp



中泊町

11 道の駅こどもり ポントマリ

国道339号(竜泊ライン)沿いにあり、津軽国定公園の中央に位置しております。特産品を取り揃えた販売コーナーや、海の生き物に触れるタッチプール、2階には地元の幸を使った料理を味わえるレストランを完備し、ゆったりとした時間を過ごすことができます。
TEL.0173-27-9300

北津軽郡中泊町大字小泊字折腰内 45



12 中泊町博物館 (なかどまりまちはくぶつかん)

中泊町をメインとする北津軽の歴史について、展示しています。常設展示の他、森林鉄道に関する展示物や、各種特別展示を随時行っています。
TEL.0173-69-1111(代)

北津軽郡中泊町大字中里字紅葉坂 210

総合文化センターパルナス内

http://www.2.town.nakadomari.aomori.jp/



13 縄文住居展示資料館 カルコ

1944年に国史跡に指定された亀ヶ岡石器時代遺跡は、縄文時代晩期(約3000~2300年前)の代表的な遺跡です。江戸時代から美術的・造形的に優れた土器が多数出土することで知られ、「亀ヶ岡文化」の名称の由来になりました。1階展示室では、復元竪穴住居と古代人形、1887年に亀ヶ岡遺跡から出土した国重文の遮光器土偶レプリカが展示されています。2階展示室では、亀ヶ岡遺跡での出土品や縄文時代の生活ぶりを紹介しています。

TEL.0173-42-6490
つがる市木道若緑 59-1



14 つがる地球村 (つがるちきゅうむら)



5000人収容の野外円形劇場をはじめ、テニスコートなどの各種スポーツ施設に露天風呂付ログハウス、シャワー完備のオートキャンプ場、炊事場にレストランと滞在型の総合レジャー施設です。

TEL.0173-26-2855

つがる市森田町床舞藤山 244 <http://www.chikyuumura.co.jp/>

15 高山稲荷神社 (たかやまいなりじんじゃ)



高山稲荷神社は農業・漁業・商業の神として知られ、青森県内や北海道など、県内外から参拝者がある霊驗あらかたな神社です。百数十段の石段を登って拝殿にでると、眼下には龍神を祀ってある龍神社、小神祀公園があり、曲線を描きながら連なるように続く赤い鳥居が特徴的です。

TEL.0173-62-2232

つがる市牛洞町鷲沢 147

16 竜飛岬 (たつびみさき)

津軽半島最北端に位置する、津軽を代表する景勝地の一つです。晴れた日には津軽海峡を挟んで遠く北海道までも見渡せ、歌謡曲にも使われるなど旅情溢れる風景と相まって、例年多くの観光客が訪れております。「龍が飛ぶがごとく強い風が吹く」という名の由来通り、体が飛ばされるほど強い風が吹きます。龍飛崎灯台と龍飛バス停を結ぶ階段は「階段国道」と呼ばれ非常に珍しい歩行者専用の国道です。付近には「青函トンネル記念館」や、「龍飛崎シーサイドパーク」「竜飛崎温泉」などが点在しています。
TEL.0174-31-1214

外ヶ浜町役場



外ヶ浜町

17 鶴の舞橋 (つるのまいはし)



津軽富士見湖にかかる「鶴の舞橋」は全長300mで、青森県産「ゆば」(樹齢150年以上)を使用しています。岩木山を背景に浮かぶ姿は、鶴が空に舞う姿を連想させます。津軽富士見湖は、弘前藩四代藩主・雄略信政公の時代に造られた溜池で、正式名称を「廻環大溜池(まわりせきおおためいけ)」といいます。TEL.0173-22-2111 鶴田町役場産業観光課

18 道の駅 つるた 鶴の里あるじゃ



「地産・地消」「安全・安心」な地元農産物の加工品が多い道の駅です。特産のスチューベンを使用した加工品が多数あります。また、同じ敷地内に大豆・米加工施設があり、お豆腐・お米の販売はもちろん、ジャンボサイズ(通常サイズの3~5倍)の「米粉パン」や豆腐の生地を使った「豆腐ピザ」などの加工品もたくさん製造販売しています。TEL.0173-22-5656 北津軽郡鶴田町大字境字里見176-1 <http://www.tsurunosato-aruja.com/>

板柳町

19 板柳町立郷土資料館 (いたやなぎちょうりつきょうどしりょうかん)



およそ三千年前、生活の拠点であった土井遺跡の出土品や、先達が我々に残していった農耕文化の足跡、農具や民具など、6,200点を超える資料を収蔵しています。TEL.0173-72-0330 北津軽郡板柳町大字灰沼字岩井70

20 板柳町ふるさとセンター (いたやなぎまちふるさとせんたー)

りんごの過去、現在、未来がわかる知的エリア「りんご資料室」や、りんごが素材の創作工房「芸芸館」総ひばつくりの贅沢なくつらぎ「コートジ」、明治から100年にわたって時代を見つめてきた「百歳のりんご樹」など見どころ満載です。その他、レストランや温泉大浴場、サーキットエリアなど、多種多様な施設を備え家族で一日中楽しむことができます。TEL.0173-72-1500 北津軽郡板柳町福野田本34-6



21 鯉ヶ沢相撲館 (あじがさわすもうかん)



鯉ヶ沢相撲館(舞の海ふるさと楼敷)は、日本の国技である「相撲」の伝統と文化を中心に、舞の海をはじめ郷土出身の力士の活躍と鯉ヶ沢の自然と文化などを紹介する展示施設です。化粧回しや浴衣、帯などのほか、土俵や映像コーナーなども充実しています。TEL.0173-72-6661 西津軽郡鯉ヶ沢町大字本町246-4 海の駅「わんど」2F

22 わさお



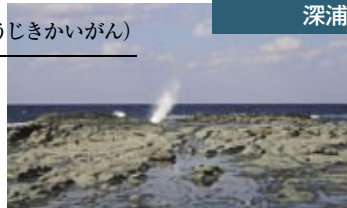
とあるブログに取り上げられたことをきっかけに、全国に知られるようになった秋田犬のわさおです。普段は焼きイカ店「七里長浜 きくや商店」で番犬をしていますが、気軽に会いに行くこともできます。Tシャツやカレンダーなどのわさおグッズが大人気で、鯉ヶ沢町観光協会HPでも通信販売しています。本人役で出演した映画「わさお」も観てね！ TEL.0173-72-6766 西津軽郡鯉ヶ沢町大字浮田町字美ノ捨59-19 七里長浜 菊谷商店



鯉ヶ沢町観光協会 <http://momo.ajigasawa.jp/> わさお通信 <http://www.toonippo.co.jp/blog/wasao>

23 千畳敷海岸 (せんじょうじきかいがん)

寛政四年の大地震で海底が隆起して出来た、広大な岩石海岸です。藩政時代、津軽の歴代藩主が領地巡検の際、ここで千枚の畳を敷いて盛大な宴会を催したそうです。海に沈む夕日がとても美しく、また海水も透き通るように美しく、海水浴客も多数訪れます。周辺には旅館や食堂が数軒あります。TEL.0173-74-2111 深浦町観光課



深浦町

24 十二湖 (じゅうにこ)

十二湖は、約280年前の大地震による山崩れや陥没により出来た、大小33の湖の総称です。海抜940メートルの崩山から見たとき12個の湖に見えることから、この名称がつけました。各湖はそれぞれ個性をもっており、特に「青池」は、まさに青いインクを溶かしたかのような色合いです。透明度が極めて高く、湖底深くに沈む白い倒木群が明瞭に見え、神秘的な美しさで見入る者を魅了します。TEL.0173-74-2111 深浦町観光課





- 主 催 公益社団法人日本青年会議所 東北地区協議会
- 主 管 公益社団法人 五所川原青年会議所
- 副主管 公益社団法人 青森青年会議所 社団法人 十和田青年会議所
公益社団法人 弘前青年会議所 公益社団法人 八戸青年会議所
社団法人 黒石青年会議所 社団法人 むつ青年会議所
社団法人 三沢青年会議所

-
- 後 援 青森県、五所川原市、つがる市、五所川原商工会議所
社団法人 五所川原市観光協会、五所川原市教育委員会

表紙／五所川原立佞武多、奥津軽虫と火まつり

明治時代末期の巨大ねぶたを津軽の「もつけ」と「じょっぱり」精神で、約 80 年ぶりに復活させ、今や全国に知れ渡るようになった“五所川原立佞武多”と、古くから伝わる伝統行事“虫おくり”に、(社)五所川原青年会議所（当時）が「火」を取り入れ、地域の幸せを願うまつりとして進化させた“奥津軽虫と火まつり”。共に奥津軽五所川原を代表するまつりとなっている。